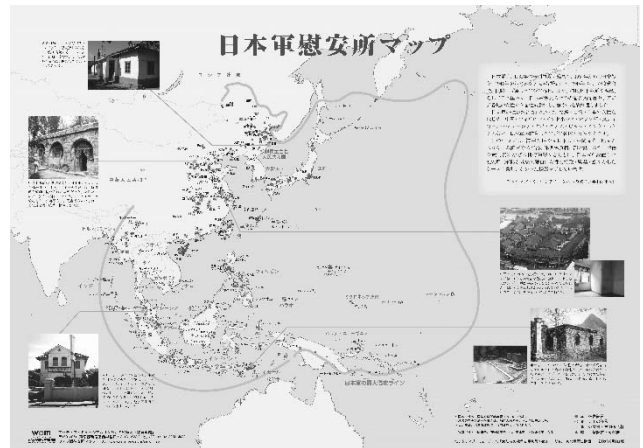


日本軍慰安所マップのアップデート 成果と課題

「女性国際戦犯法廷」で準備した慰安所マップを、全面的にアップデートする事業をwamで実施してから10年が経ちました。この間、インドネシアや中国から新たな被害証言があり、「戦争責任資料センター」による第3次国会図書館調査もなされたことから、さらなるアップデートが課題となっていました。また、準備を進めていた慰安所マップ・ウェブサイトについても、公開には至っていませんでした。そこで、丸10年となる今年秋の完成をめざして、wamでは慰安所マップのアップデートとウェブ公開に向けた作業を進めています。



慰安所があった場所を地図に落とすことによって、広範囲にわたった日本軍性奴隷制の実態を示す試みは1990年代半ばから取り組まれてきました。被害女性や元兵士の証言、公文書に記載された慰安所情報は、国名しかわからないものから建物を特定できるものまでさまざまあり、また、何をもって「軍慰安所」と呼ぶのかについても議論がなされてきました。史料の限界からこういった疑問がはっきりするわけではありませんが、wamでの検討経過をご紹介します。膨大な作業の実際について、wam支援者のみなさまにご報告をする場を設けたいと思います。今年最後のイベント、ぜひふるってご参加ください。

日時：2019年12月7日（土）16:00～18:00

場所：wam オープンスペース

参加費：会員 300円（友の会・維持会員とも）、非会員 800円

* 報告会の前に展示を見学される場合、別途入館料が必要です。

報告会終了後にwam会員の交流会開催を予定しています。詳細は11月末発送の会報に同封するお知らせをご確認ください。

会員になりませんか？

●友の会年会費：3,000円 ●維持会員年会費：10,000円

会員にはニュースレター(年3回)のほかイベント案内などを逐次おしらせします。維持会員は入館料無料。各種セミナーや刊行物の割引もあります。

郵便振替口座番号：00110-2-579814

口座名称：「女たちの戦争と平和人権基金」係

wam

アクティブ・ミュージアム

女たちの戦争と平和資料館

women's active museum on war and peace

開館時間：水～日 13:00～18:00

休館日：月・火・祝日・年末年始

※団体の祝日・時間外のご来館はご相談ください。
※展示入れ替え期間は休館となります。

入館料：18歳以上 500円

18歳未満 300円

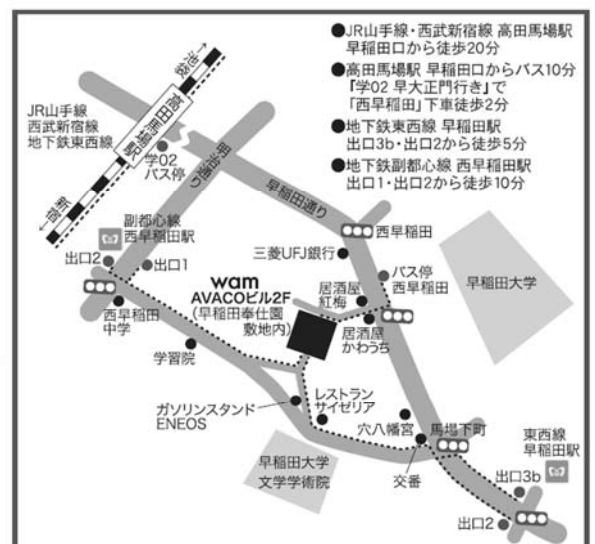
小学生以下 無料

※障がいのある方の付き添いは無料です。

東京都新宿区西早稲田2-3-18 AVACOビル2F 〒169-0051

T:03-3202-4633 F:03-3202-4634

E:wam@wampeace.org



wam 第16回 特別展セミナー

朝鮮人「慰安婦」の声をきく～日本の植民地支配責任を果たすために

場所：wam オープンスペース 参加費：各回 800 円（会員割引あり）

第5回 2019年10月6日（日）14時～16時

在日の女として、^{ソン シンド}宋神道さんと出会う



ゲスト：^{チュ ス ジャ}朱秀子さん（元・在日の慰安婦裁判を支える会）

1949年生まれの在日2世。学校での民族差別、家での男尊女卑に居場所がなかった子ども時代。「成人したら帰化して日本人に紛れ込もう」と心に決めていたものの、就職差別を受け、日本から成人式の通知さえ届きません。1969年、民団主催の成人式で民族運動と出会うと、日本社会の理不尽さに怒りが爆発、「女だてらに」と言われながら民主化運動や人権運動に没頭しました。そして1991年、来日の際に肺気腫で倒れた金学順さんの看病を頼まれ、その苦悩を目の当たりにして、「慰安婦」問題は荷が重すぎると後ずさりしかけたとき、宋神道さんと出会います。

「在日の慰安婦裁判を支える会」発足当初から宋神道さんとの連絡や会計を担当し、会を離れた後も、宋神道さんが「スンジャ、スンジャ」と最期まで深い信頼を寄せていた朱秀子さんに、宋神道さんとの出会いを語っていただきます。

第6回 2019年11月17日（日）14時～16時

植民地主義に抗した朝鮮のフェミニスト 帝国の良妻賢母主義から公娼制まで

ゲスト：^{ソン ヨノク}宋連玉さん（青山学院大学名誉教授、文化センター・アリラン館長）

日本軍「慰安婦」制度と公娼制や「公」の枠からはみ出た様々な形態の性売買、日本の廃娼運動と朝鮮の廃娼運動——様々なテーマ間のつながり・関係性を大切に、研究を続ける宋連玉さん。今回のセミナーでは植民地期のフェミニストたちに焦点を当ててお話しいただきます。

朝鮮の女性たちはいろいろな方法や思想で、日本の植民地主義に抗して闘ってきました。女性の視点を民族独立運動に加え、神社参拝を拒否して抵抗したり、社会主義思想に基づいて女性解放をめざしたり——そうした闘いの多様さが、日本ではほとんど知られていません。

これまで別々に論じられてきたテーマを結ぶ視点で植民地主義に抗した朝鮮のフェミニストに出会いなおします。

